

教	職	課
履	修	程
ブ	ハ	ン
ツ	ク	ド

教員養成の明日を築く



岡山大学教師教育開発センター

Center for Teacher Education and Development, OKAYAMA UNIVERSITY

『教職課程履修ハンドブック』の刊行に寄せて

岡山大学教師教育開発センター長

岡山大学教育学部長・大学院教育学研究科長

加 賀 勝

岡山大学では、文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部、マッチングプログラムコースで、中学校・高等学校の教員免許状を取得することができます。これらの学部・コースでは、例年、約200名の皆さんが教員免許状を取得し、卒業しています。近年の少子化の状況とも相まって、中学校・高等学校の教員採用試験は全国的に厳しい状況が続いています。しかし本学の卒業生は、そのような困難を乗り越え、優れた資質を有する新人教師として教育界に羽ばたいています。

この『教職課程履修ハンドブック』は、教育学部以外の学部・コースに所属しながら教職をめざす学生の皆さんのために、本学の教師教育開発センターが作成したものです。

センターでは、より質の高い教職課程のカリキュラムを開発しています。また教職課程の履修に関する相談を受け付けたり、公立学校でのボランティア体験やインターンシップの機会を提供しています。さらに教員採用に向けた講座の開設や相談体制を整えたりしています。

センターは皆さんを全面的にバックアップする全学組織です。その取り組みには、本学教育学部・大学院教育学研究科の先進的な研究成果が反映されています。また、学部の枠を超えて全学の教職課程を研究的・実践的に支援する体制は全国的にも例が無く、なかでも国立大学では本学が初めての試みとなっており、高い評価を得ています。

大学は「皆さんがこの大学を卒業するときには、このような人材として育てて欲しい」という願いを「DP：ディプロマ・ポリシー（卒業時の達成目標）」として掲げています。つまりDPとは、大学が皆さんとの間で交わした「約束」です。全学教職課程のディプロマ・ポリシーは、「ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な発展を支える教育）の理念をもち、4つの力（学習指導力、生徒指導力、マネジメント力、コーディネート力）で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員を育てること」です。

みなさんは、各々が専門とする学部で学ぶことの他に、いわば「もうひとつの専門」として「教職」を選びました。ひとりでも多くの皆さんが、優れた資質と実践力を持つ教師として巣立って下さることを願い、ここに本書を刊行します。

【目次】

はじめに	岡山大学で教師をめざすということ	1
	1. 岡山大学が育てる「教師」とは？ -ESD の理念と教師教育開発センターの役割	1
	2. 教育実践力を構成する4つの力とは？	2
	3. より深い専門知識を備えた、教科の豊かさを伝えられる教師へ	3
	4. よりいっそうの「質保証」が求められる時代	3
I.	教職課程履修ガイド	5
	1. 教員免許状取得までのスケジュール	5
	2. 教職課程科目登録チェックリスト	6
	3. 教員免許状取得要件	7
	4. 教員免許状を取得するための科目区分チェックリスト	8
	5. 学部別問い合わせ窓口	13
II.	教員免許状とは	15
	1. 教員免許制度の概要	15
	2. 教員免許状の種類	16
	3. 岡山大学で取得できる教員免許状（学部及び大学院）	17
III.	教職科目単位修得方法	18
	1. 全学部共通の履修方法	18
	2. 学部別の履修方法	19
IV.	母校訪問	20
	1. 母校訪問の意義	20
	2. 母校訪問の期間と内容	20
	3. 教職志望学生としての自覚と責任	20
	4. 母校訪問のための事前準備	21
	5. 訪問時の注意	22
	6. 母校訪問を終えた後に行うこと	22
	7. 母校訪問 Q&A	23
V.	介護等体験	27
	1. 実施スケジュール及び手続の流れ	27
	2. 介護等体験に係る留意事項	28
VI.	教育実習	30
	1. 実施スケジュール及び手続の流れ	30

VII. 教員免許状の申請方法	32
VIII. 教員就職への支援体制	33
1. 困ったら教職相談室へ	33
2. 教師力養成講座で力量を高めよう	33
IX. 学部卒業後の教職課程履修ガイド	35
X. 先輩からのメッセージ	36

はじめに 岡山大学で教師をめざすということ

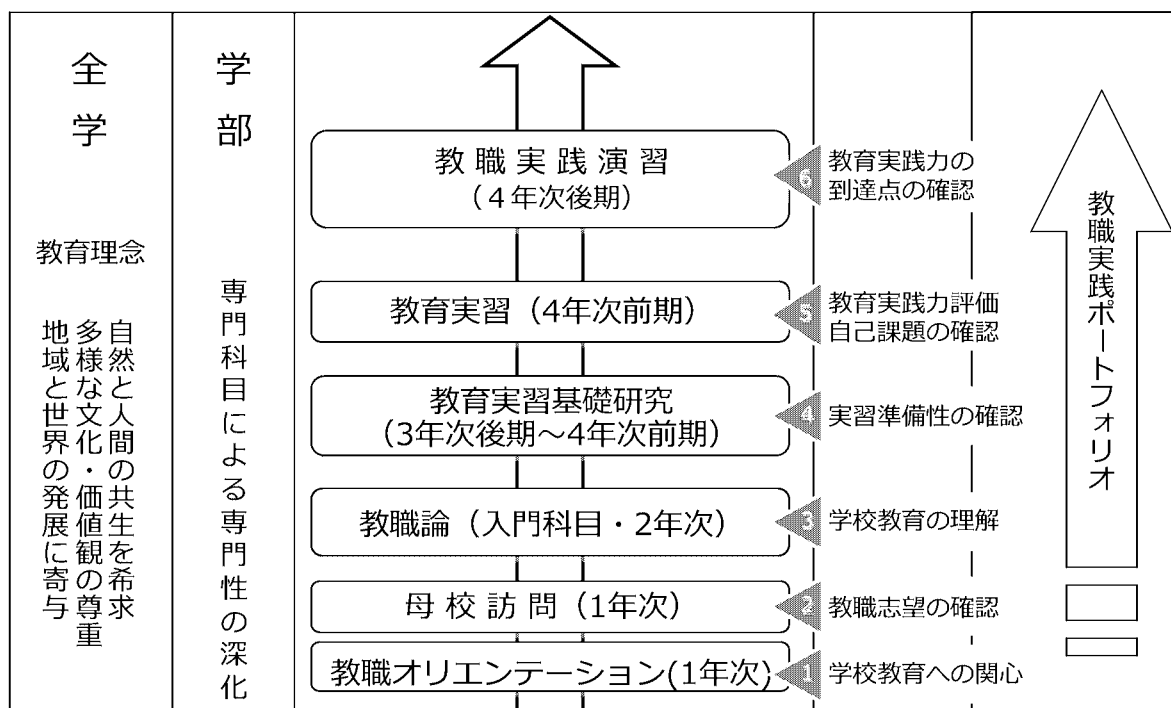
1. 岡山大学が育てる「教師」とは？ —ESDの理念と教師教育開発センターの役割

現代社会は地球規模の深刻な環境破壊や資源保全の問題を抱えています。人類が現在の生活水準を維持し、さらなる発展の可能性を維持しながら、社会を次世代に受け渡すことはとても重要な課題です。このためには地球的な視野を持つ、主体的な市民の育成が欠かせません。「ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な発展を支える教育）」の理念に基づく教育とは、このような困難な時代に立ち向かえる市民へと、子どもたちを育むことをめざしています。

このような時代の要請に応えられる教師を養成するために、本学では教師教育開発センターを創設し、「全学教職コア・カリキュラム」を構築しました。また、優れた資質と実践力を備えた教師となるために、学部の4年間で何を学ばば良いか、教職への育ちを常に点検・確認し、着実に次のステップへと自己を高めるにはどうしたら良いか、そうした自己課題の発見と解決に資するツールとして、別途配布している「教職実践ポートフォリオ」を開発しました。

教師教育開発センターは、単に皆さんの教員免許状取得を支援するだけの機関ではありません。ESDの理念を持ち、4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた、より資質の高い中学校・高等学校の先生を育てること、すなわち「優れた教師として在り続けられる人材」を岡山大学から全国に輩出することをめざしています。

ESDの理念をもち、4つの力で構成される教育実践力を
バランスよく身につけた反省的で創造的な教員



2. 教育実践力を構成する4つの力とは？

優れた実践的指導力を有する教師となるには、次の4つの力をバランスよく身につける必要があります。

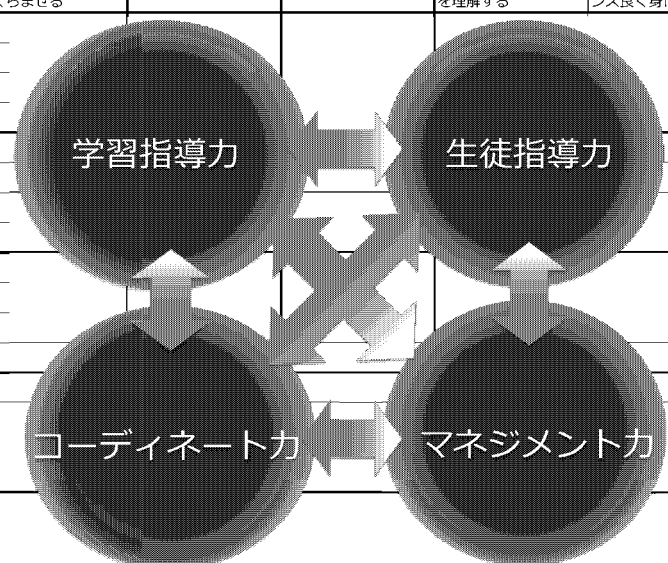
- ①学習指導力 : 子どもの学習を指導する力量
- ②生徒指導力 : 子どもの生活を指導する力量
- ③コーディネート力 : 家庭、地域、同僚、様々な専門家と協働する力量
- ④マネジメント力 : 学校組織や自分自身を統制、改善し、計画する力量

4つの力は単一の力ではなく、また並列しているのでもありません。むしろ互いに関わり合い、影響し合うなかで、教師の実践的指導力を形作っています。つまり、コーディネート力とマネジメント力を土台とした生徒指導力が必要であり、さらにこの3つの力を機能させながら、学習指導力を発揮することが大切だと考えられます。

教師教育開発センターが開発した教員養成コア・カリキュラムは、学部1年次から4年次までを下表の通り4つの期(教職への意欲向上期→学校教育理解期→基礎的教育実践力養成期→教育実践力養成期)に分け、そのなかで学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力といった4つの力をバランス良く、かつ段階的に育むことをめざしています。

折々の期にふさわしいねらいを設定するとともに、これを達成するのに必要な課題を教職実践ポートフォリオに基づいて具体的に点検・確認し、このことによって、さらなる自己課題の発見を促そうとしています。

全学教職課程履修者対象 教職実践ポートフォリオ 自己評価指標		学年	1年次	2年次	3年次	4年次前期	4年次後期
		期	教職への 意欲向上期	学校教育理解期	基礎的教育実践力 養成期	教育実践力養成期	
		ね ら ら い	教職志望を確認し、 教職への夢と希望を ふくらませる	学校教育の基本を理解 する	教育実践に必要な基礎 的力を理解する	教育実習を経験する中 で、必要な教育実践力 を理解する	自らの実践をふりかえ り、教育実践力をバラ ンス良く身につける
学 習 指 導 力	学習状況の把握力						
	授業設計力						
	授業実践力						
生 徒 指 導 力	授業の分析・省察力						
	生徒(発達的特徴)理解力						
	生活実態理解力						
コ ー デ ィ ネ ー ト 力	コミュニケーション力						
	生活指導力						
	実習生協働力						
マ ネ ジ メ ン ト 力	教職員連携力						
	連携機関理解力						
	保護者・地域連携力						
マ ネ ジ メ ン ト 力	セルフマネジメント力						
	専門職マネジメント力						
	学級・学年マネジメント力						
	学校マネジメント理解力						



3. より深い専門知識を備えた、教科の豊かさを伝えられる教師へ

教員免許状を取得するには、所属する学部を卒業するために必要な単位に加え、教職課程に関する科目（教員免許状を取得するのに必要な科目）を履修し、その単位を修得しなければなりません。そのため、通常よりも多くの負担を自らに課すことになります。

しかし皆さんの強みは、取得しようとする教員免許状の教科について、その背景にある学問を、あなたが専門とする学部でよりいっそう深く学んでいることにあります。学問に関する深い知識と経験に基づいて、その教科の面白さや豊かさを子どもたちに伝えられる教師となるべく、教職課程の履修に取り組んでください。

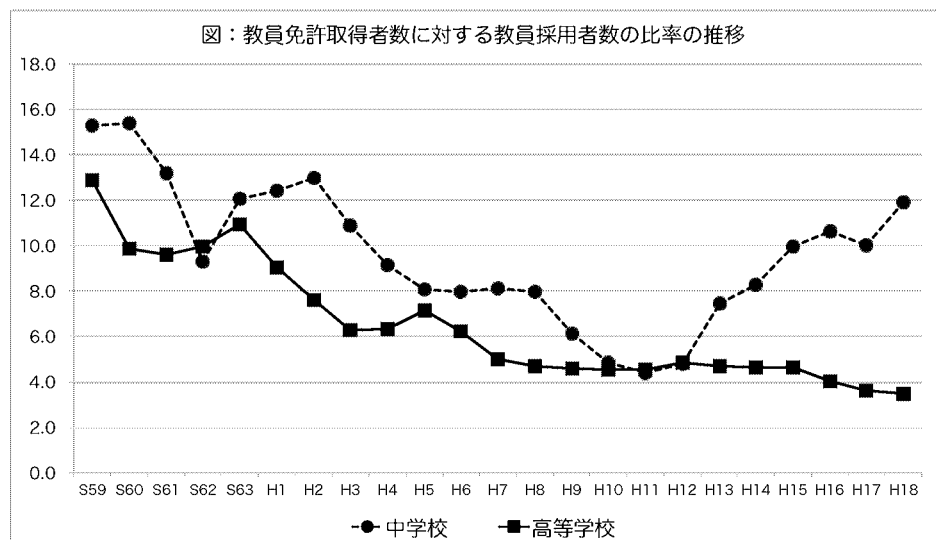
なお、本学で取得できる教員免許状の詳細は「Ⅱ. 教員免許状とは」（15 頁）を参考にしてください。皆さんが取得できるのは、中学校ならびに高等学校の教員免許状です。法学部、経済学部、工学部、そして環境理工学部（環境デザイン工学科、環境管理工学科、環境物質工学科）、ならびに農学部では、高等学校の教員免許状が取得できます。文学部、理学部ならびに環境理工学部（環境数理学科）では、中学校及び高等学校の教員免許状が取得できます（いずれかひとつの校種のみ絞ることも可能です）。

4. よりいっそうの「質保証」が求められる時代

「Ⅱ. 教員免許状とは」（15 頁）に詳述している通り、平成 22 年度以降に入学した皆さんは、改正された新しい教員免許制度のもとに教職課程を履修することになっています。これは従来のように、教員免許を「資格取得のひとつ」として考え、希望すれば誰もが受けられるプログラムとするのではなく、より資質の高い教師を養成することをめざしたプログラムへと変わったことを意味します。

下図は全国で教員免許状を取得した者のうち、実際に教職へ就いた者の比率を示したグラフです。平成 18 年の時点で、中学校では 12%，高等学校ではわずか 4%にも満たないことが判ります。つまり、教職に就く者は非常に少ないにもかかわらず、大変多くの教員免許状が発行されていたことを表しています。

このような状況に対して「取得を希望する免許状にふさわしい質と実践的指導力が備わったか否か？」を常に点検・評価しながら養成し、4 年次後期の必修科目「教職実践演習」によってその成果を確認することを定めたのが、改正後の教育職員免許法施



行規則の主旨です。このことをしっかりと理解して頂きたいと思います。

本学は皆さんに対して質の高い教職課程を提供します。これを履修しようとする皆さんにも、教職に対する真摯な気持ちを大切に、常に自己を高める努力をして頂きたいと願っています。

■■■ 教員免許状には有効期限があります ■■■

平成 19 年に教育職員免許法が改正されたことに伴い、皆さんが取得する教員免許状には有効期限があり、法律によって義務付けられた教員免許状更新講習を受講しなければ、失効することになっています。

この教員免許更新制とは、その時々時代と社会のなかで教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることをめざすものです。

【有効期限と失効・再交付について】

- 教員免許状の有効期間は 10 年です。
- 有効期限の 2 年 2 ヶ月前から 2 ヶ月前までに教員免許状更新講習を修了していなければ、免許状は失効します。

例：有効期限が平成 31 年 3 月 31 日の場合は、平成 29 年 2 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日までに教員免許状更新講習を修了し、かつ、教育委員会への更新手続きを完了しなければなりません。

- 卒業後、教職に就かなかった方（いわゆるペーパー・ティーチャー）は、教員免許状更新講習を受講できませんから、必ず一旦失効します。
- 失効後、仮にあなたが教員採用試験を受験し、合格した場合、あるいは臨時的任用者として採用される場合は、就任時までに更新講習を修了し、免許状の再交付を受けることになります。
- 更新講習を受講できるのは次の方です。
 - ① 現職教員（臨時的任用者を含む。）
 - ② 実習助手、寄宿舎指導員、学校栄養職員、養護職員
 - ③ 教育長、指導主事、社会教育主事、その他教育委員会において学校教育または社会教育に関する指導等を行う者
 - ④ 教員採用内定者（臨時的任用予定者を含む。）
 - ⑤ 過去に教員として勤務した経験のある者
 - ⑥ 認定子ども園または幼稚園も設置している者が設置する保育所などで勤務している場合に限り、幼稚園教諭免許状を有している保育士

【教員免許状更新講習とは？】

- 大学などが文部科学大臣の認定を受けて開設するものです。各自の都合に合わせて、出身大学以外でも受講することができます。
- 講習時間は 30 時間です。その内訳は「①教育の最新事情に関する事項(12 時間以上)」「②教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項(18 時間)」です。1 日に 6 時間分の講習を受講しても 5 日間かかります。

1. 教職課程履修ガイド

1. 教員免許状取得までのスケジュール



2. 教職課程科目登録チェックリスト

このチェックリストは、教職課程の科目を履修登録する際に留意すべき事項を、履修開始までの流れに沿って示しています。このチェック項目はあくまで一般的な留意事項です。年度や学期によって状況は変動しますので、必要に応じて所属学部 of 学生便覧を確認したり、教職課程に係る掲示には常に注意を払うなどしてください。

	1年次	2年次	3年次	4年次
【登録前の確認】				
自分の学科・専攻等で取得可能な教員免許状を確認する。	<input type="checkbox"/>			
教員免許状の取得に必要な授業科目のうち、自分の学部・学科等で受講する授業科目を確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教員免許状の取得に必要な授業科目のうち、自分の学部・学科等以外で受講する授業科目を確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
※学期ごとの時間割を作成し、以下の点を確認しよう。				
その科目に履修要件はあるか？ またその要件を満たしているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無理のない履修が組めているか（教室移動の時間は十分に確保できているか）？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
同一コマでの授業科目の重複は無いかな？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学部の卒業要件を満たす履修が組めているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教員免許状の取得が可能な履修が組めているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【科目の決定に際して】				
配当年次を間違えていないか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教養教育科目や専門教育科目の必修科目と、教職課程の必修科目との優先順位をつけているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
重複した科目を次年度以降の履修に回す場合、時間割を組むことが可能か？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
様々な事情（集中講義等、大学の授業や学会への出席等）を考慮して、介護等体験の時期を設定しているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4年次の教育実習の履修要件となっている科目を優先して履修しているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
授業担当者、教室、開講の曜日時限等を把握しているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
当該科目のシラバスを確認しているか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
年間の履修上限単位数を超過していないか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【科目の登録と確認】				
自分が選択した教職科目が、卒業要件の単位として算入可能かどうかを確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
間違いなく履修登録ができているかどうかを確認する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3. 教員免許状取得要件

教員免許状は、下の表に示すように、「学士の学位を有すること」、及び「必要最低単位数を修得すること」により取得することができます。

該当する授業科目は、「Ⅲ. 教職科目単位数取得方法」（18頁）で説明しています。

免許状の種類	基礎資格	必要最低単位数				介護等体験
		① 文部科学省令で定める科目	② 教職に関する科目	③ 教科に関する科目	④ 教科又は教職に関する科目	
中学校教諭一種	学士の学位を有すること	8 ^{注1}	31	20	8	必要
高等学校教諭一種	学士の学位を有すること	8 ^{注1}	25 ^{注2}	20 ^{注1}	16	不要

注1 所属する学部及び取得を希望する免許教科によっては、この表に示している以上の単位数が必要です。

注2 教育職員免許法では、23単位ですが、岡山大学のカリキュラムでは25単位必要です。

基礎資格

学士の学位を有すること

所属学部を卒業すると「学士の学位」を取得することができます。

必要最低単位数

① 文部科学省令で定める科目

「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」及び「情報機器の操作」の区分でそれぞれ必要です。授業科目は、教養教育科目として開講されています。(学部・学科によっては、専門教育科目の場合があります。)

② 教職に関する科目

授業科目は、教育学部の専門科目として開講されています。

③ 教科に関する科目

授業科目は、所属学部の専門教育科目として開講されています。(学部・学科によっては、一部教養教育科目や他の学部で開講されている場合があります。)

④ 教科又は教職に関する科目

必要最低単位数を超えて修得した②教職に関する科目や③教科に関する科目の授業科目が該当します。

介護等体験

中学校教諭の免許状を取得する場合は、上記の必要最低単位数の修得以外に、「介護等体験」が必要です。

4. 教員免許状を取得するための科目区分チェックリスト

教員免許状を取得するためには、前頁「3. 教員免許状取得要件」の必要単位数を修得しなければなりません。

下の表は、教員免許状を取得するために必要な①から④の科目区分ごとの単位数を表しています。

科目区分ごとに必要な単位を修得後は、区分欄の□にチェックをして必要な単位に不足がないかを確認してください。

① 文部科学省令で定める科目

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本国憲法		
<input type="checkbox"/> 体育		
<input type="checkbox"/> 外国語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 情報機器の操作		

② 教職に関する科目

中学校のみ、又は中学校と高等学校の両方の教員免許状を取得する場合

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 教職の意義等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<input type="checkbox"/> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<input type="checkbox"/> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
<input type="checkbox"/> 教育課程の意義及び編成の方法		
<input type="checkbox"/> 各教科の指導法		
<input type="checkbox"/> 道徳の指導法		
<input type="checkbox"/> 特別活動の指導法		
<input type="checkbox"/> 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<input type="checkbox"/> 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育実習		
<input type="checkbox"/> 教職実践演習		

高等学校のみの教員免許状を取得する場合

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 教職の意義等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<input type="checkbox"/> 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<input type="checkbox"/> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
<input type="checkbox"/> 教育課程の意義及び編成の方法		
<input type="checkbox"/> 各教科の指導法		
<input type="checkbox"/> 特別活動の指導法		
<input type="checkbox"/> 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<input type="checkbox"/> 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		
<input type="checkbox"/> 教育実習		
<input type="checkbox"/> 教職実践演習		

③ 教科に関する科目

中学校 国語

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<input type="checkbox"/> 国文学（国文学史を含む。）		
<input type="checkbox"/> 漢文学		
<input type="checkbox"/> 書道（書写を中心とする。）		

高等学校 国語

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<input type="checkbox"/> 国文学（国文学史を含む。）		
<input type="checkbox"/> 漢文学		

中学校 社会

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本史及び外国史		
<input type="checkbox"/> 地理学（地誌を含む。）		
<input type="checkbox"/> 「法律学，政治学」		
<input type="checkbox"/> 「社会学，経済学」		
<input type="checkbox"/> 「哲学，倫理学，宗教学」		

高等学校 地理歴史

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 日本史		
<input type="checkbox"/> 外国史		
<input type="checkbox"/> 人文地理学及び自然地理学		
<input type="checkbox"/> 地誌		

高等学校 公民

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」		
<input type="checkbox"/> 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」		
<input type="checkbox"/> 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」		

中学校 数学

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 代数学		
<input type="checkbox"/> 幾何学		
<input type="checkbox"/> 解析学		
<input type="checkbox"/> 「確率論, 統計学」		
<input type="checkbox"/> コンピュータ		

高等学校 数学

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 代数学		
<input type="checkbox"/> 幾何学		
<input type="checkbox"/> 解析学		
<input type="checkbox"/> 「確率論, 統計学」		
<input type="checkbox"/> コンピュータ		

中学校 理科

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 物理学		
<input type="checkbox"/> 物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 化学		
<input type="checkbox"/> 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 生物学		
<input type="checkbox"/> 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)		
<input type="checkbox"/> 地学		
<input type="checkbox"/> 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)		

高等学校 理科

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 物理学		
<input type="checkbox"/> 化学		
<input type="checkbox"/> 生物学		
<input type="checkbox"/> 地学		
<input type="checkbox"/> 「物理学実験 (コンピュータ活用を含む。), 化学実験 (コンピュータ活用を含む。), 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。), 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)」		

中学校 英語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 英語学		
<input type="checkbox"/> 英米文学		
<input type="checkbox"/> 英語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 英語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 英語学		
<input type="checkbox"/> 英米文学		
<input type="checkbox"/> 英語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

中学校 ドイツ語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 独語学		
<input type="checkbox"/> 独文学		
<input type="checkbox"/> 独語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 ドイツ語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 独語学		
<input type="checkbox"/> 独文学		
<input type="checkbox"/> 独語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

中学校 フランス語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 仏語学		
<input type="checkbox"/> 仏文学		
<input type="checkbox"/> 仏語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 フランス語		
区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 仏語学		
<input type="checkbox"/> 仏文学		
<input type="checkbox"/> 仏語コミュニケーション		
<input type="checkbox"/> 異文化理解		

高等学校 情報

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 情報社会及び情報倫理		
<input type="checkbox"/> コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報システム（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）		
<input type="checkbox"/> 情報と職業		

高等学校 農業

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 農業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

高等学校 工業

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 工業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

※工業の教科については、「教職に関する科目」の単位数の全部又は一部の単位の修得は、同数の「教科に関する科目」の単位の修得をもって替えることができます。

高等学校 商業

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 商業の関係科目		
<input type="checkbox"/> 職業指導		

④ 教科又は教職に関する科目

中学校

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教科に関する科目」		
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教職に関する科目」		

高等学校

区 分	修得単位数	
	小 計	合 計
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教科に関する科目」		
<input type="checkbox"/> 必要単位数を超えて修得した「教職に関する科目」		

5. 学部別問い合わせ窓口

教員免許状取得に関する問い合わせ

学部	担当窓口	場所	電話
文学部	社会文化科学研究科等 事務 部	文学部教務担当	086-251-7366
法学部		法学部教務担当	086-251-7363
経済学部		経済学部教務担当	086-251-7365
理学部	自然系研究科等 理学部事務室	教務学生担当	理学部1号館1階 086-251-7780
工学部	自然系研究科等 学 務 課	工学部担当	工学部1号館1階 086-251-8018
環境理工学部	自然系研究科等 環境理工学部事務室	教 務 担 当	環境理工学部棟2階 086-251-8816
農学部	自然系研究科等 農学部事務室	教務学生担当	農学部1号館1階 086-251-8287
マッチング プログラムコース	自然系研究科等 理学部事務室	教務学生担当	理学部1号館1階 086-251-7763

教育学部の授業科目に関する問い合わせ

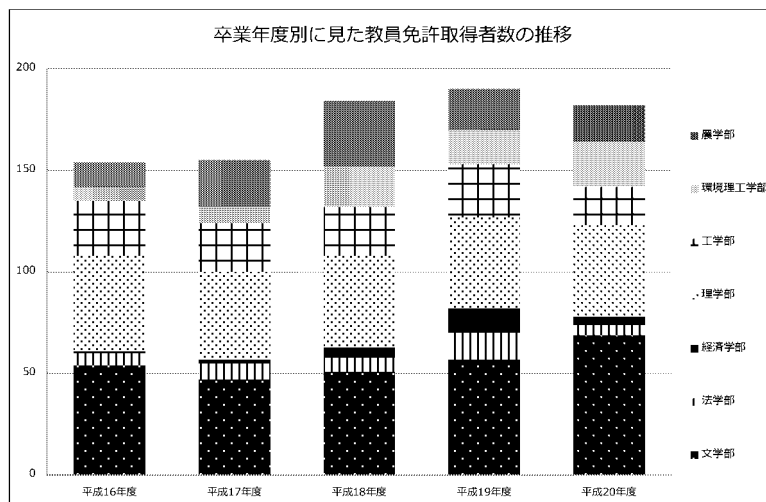
教育学系教務学生係

場所 教育学部講義棟 1階

電話 086-251-7598, 7599

■ ■ ■ 増えつつある教員免許状の取得 ■ ■ ■

近年の厳しい雇用情勢を反映してか、本学でも教員免許状を取得する学生が年々増加する傾向にあります。また、本学で教員免許状を取得した学生の卒業時の進路決定率は約90%を越えています。教職課程の履修に真摯に取り組んでいる学生が、民間企業や公務員等の就職試験等でも社会的に高い評価を得ていることが判ります。もちろん、取得しようとする免許にふさわしい「質」を備えるべく、努力を重ねることが大切です。



II. 教員免許状とは

1. 教員免許制度の概要

「大学における教員養成」と「開放制」

教育学部生ではないにもかかわらず、皆さんが教員免許状を取得できるのはなぜなのでしょう？ また、あなたが取得できる教員免許状が、中学校と高等学校の教員免許状に限られていて、小学校や幼稚園や特別支援学校等の教員免許状を取得できないのはなぜなのでしょう？ その理由をここで簡単に解説します。

日本の教員養成制度は、次の2つの原則を有しています。ひとつは「大学における教員養成」という原則であり、いまひとつは「開放制」という原則です。

「大学における教員養成」の原則とは何でしょうか？ 裏返せば、これは「教師は大学で養成することを原則とする」ということになります。つまり、高等学校や専門学校で養成するのではなく、教養教育の土台の上に専門教育を受け、4年間にわたる学士課程を修了する者に教職への道を開くという原則に立っていることを意味します（なお、短期大学のように2年間の課程による場合もあります）。

次に「開放制」の原則とは何でしょうか？ これは、教員の養成を教育学部や教育系の単科大学などに限って（つまり閉鎖的に）行うのではなく、多様な専門学部から輩出される人材に教職への道を開き、そのことによって、学校現場を深い専門性と学問知識に裏打ちされた豊かな人材で満たそうとする考え方です。つまり、学校は皆さんを求めている、ということです。

教員免許制度を支える組織・法律

大学で教員養成を行う場合、国（文部科学省）、大学、そして教育委員会の三者が関係することになります。その役割は以下ようになります。

国（文部科学省）：教員免許状授与に関する法令を制定し、文部科学大臣が大学から申請された課程を認定します。

大学（学部）：法令に従って教員養成の課程を設置します。このとき個々の学部は、自らの学部で学生に取得させる免許教科・学校種を定め、これに必要な授業科目を開設することになります。

教育委員会：教員免許状を授与（発行）する主体は各都道府県の教育委員会です。在学中に要件を満たした者については、大学から一括して教員免許状の申請を行います。卒業後に要件を満たした者については、各自で申請することになります。なお、教員採用試験を実施する主体も教育委員会です。

教員免許制度を定める主な法律は「教育職員免許法」と「教育職員免許法施行規則」です。前者は平成20年6月、後者は平成22年3月に改正されました。このことによって、本学でも平成22年度以降の入学生は、新しい教員免許制度のもとに養成することになり、これまで以上の「質保証」が求められることになっています。

皆さんが4年次後期に必修で履修することになる「教職実践演習」は、今回改正された教育職員免許法施行規則の主旨でもあり、「教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を習得したことを確認する」ための科目です。したがって教職実践演習を履修するまでに、『教職実践ポートフォリオ』に基づいた自己課題の発見と解決に努め、本学の教職課程が掲げる DP をめざし、教師として求められる力量をほぼ身につけていることが望ましいといえるでしょう。

2. 教員免許状の種類

一般的に教員免許状は免許種、学校種・職種、教科によって分類されています。これを整理すると下記のようになります。

免許種

免許状には次のような種類があります。職務上の差異はありませんが、給与・昇進等が異なります。

一種免許状：主に学部学生が取得できる免許状です。法令で定められた教職科目を修得し、学部を卒業（学士の学位を取得）することで得られる免許状です。

専修免許状：一種免許状に必要な単位に加え、大学院で専門的な教職科目を修得し、大学院を修了（修士の学位を取得）することで得られる免許状です。

二種免許状：通常、短期大学を卒業（準学士を取得）することで得られる免許状です。

学校種（校種）・職種

幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校の教諭になるには、学校種ごとの教員免許状が必要です。また養護教諭及び栄養教諭はその職種に対応した教員免許状が必要です。

中学校と高等学校は教科ごとの免許状に分かれます。皆さんが取得できるのは中学校，高等学校の教員免許状です。学部や学科によって、中学校と高等学校の両方の免許状が取得できる場合と、高等学校の免許状に限られている場合があります。詳細は「3. 岡山大学で取得できる教員免許状」（17 頁）で確認してください。

教科

中学校と高等学校教諭の免許状は教科による区別があり、所属する学部・学科等によって取得できる教科が定められています。学部・学科の枠を超えた校種・教科の免許状の取得は出来ません※。

※ただし、岡山大学では、理科に強い小学校・中学校の教員を養成するために、学部から修士課程までの6年間を通じた特別プログラムを開講しています。このプログラムを受講することにより、教育学部以外の理工系学部学生が小学校教員免許を取得することが可能です。詳しくは教師教育開発センターの理数系教員養成事業部門を訪ねてください。

3. 岡山大学で取得できる教員免許状

学 部			
学 部	学 科	取得可能な教員免許状	
		学校種	免許教科
文学部	人文学科	中学校	国語, 社会, 英語, ドイツ語, フランス語
		高等学校	国語, 地理歴史, 公民, 英語, ドイツ語, フランス語
法学部	法学科	高等学校	地理歴史, 公民
経済学部	経済学科	高等学校	地理歴史, 公民, 商業
理学部	数学科	中学校	数学
		高等学校	数学, 情報
	物理学科	中学校	理科
		高等学校	理科, 情報
	化学科	中学校 高等学校	理科
	生物学科		
地球科学科			
工学部	機械システム系学科	高等学校	工業
	電気通信系学科		情報, 工業
	情報系学科		情報
	化学生命系学科		理科, 工業
環境理工学部	環境数理学科	中学校	数学
		高等学校	数学, 情報
	環境デザイン工学科	高等学校	理科, 工業
	環境管理工学科	高等学校	理科
	環境物質工学科	高等学校	理科
農学部	総合農業科学科	高等学校	理科, 農業

大学院			
研究科	専 攻	取得可能な教員免許状	
		学校種	免許教科
社会文化科学研究科 博士前期課程	社会文化基礎学専攻	中学校	社会
		高等学校	地理歴史, 公民
	比較社会文化学専攻	中学校	国語, 社会, 英語, ドイツ語, フランス語
		高等学校	国語, 地理歴史, 公民, 英語, ドイツ語, フランス語
	公共政策科学専攻	高等学校	公民
	組織経営専攻	高等学校	商業
自然科学研究科 博士前期課程	数理物理科学専攻	中学校	数学
		高等学校	数学
	分子科学専攻	中学校	理科
		高等学校	理科
	地球科学専攻	高等学校	理科
	機械システム工学専攻	高等学校	工業
	電子情報システム工学専攻		
	物質生命工学専攻	中学校	理科
	高等学校	理科	
生物資源科学専攻	高等学校	理科	
生物圏システム科学専攻	高等学校	農業	
環境学研究科 博士前期課程	社会基盤環境学専攻	高等学校	理科, 工業
	生命環境学専攻	高等学校	数学, 農業
	資源循環学専攻	高等学校	理科, 工業

III. 教職科目単位修得方法

1. 全学部共通の履修方法

② 教職に関する科目

中学校のみ、又は中学校と高等学校の両方の教員免許状を取得する場合									
区 分	必 要 単位数	該当授業科目	単 位	履修年次				履修 方法	教育実習 履修資格
				1	2	3	4		
教職の意義等に関する科目	2	教職論	2		●			必修	2
教育の基礎理論に関する科目	2	学校と教育の歴史	2	●				必修	2
	2	学校教育心理学	2	●				必修	
	2	教育の制度と社会 人権・同和教育	2 2		●			必修	
教育課程及び指導法に関する科目	2	カリキュラム論 ※下記を参照のこと。 道徳教育論 特別活動論 教育の方法と技術 現代教育方法学 学習意欲向上の原理と方法 教育評価・測定	2		●			必修	4
	2 又は 4		2		●	●		必修	
	2		2			●		必修	
	2		2		●			必修	
	2 又は 4		2		◎				
			2		◎				
			2		◎				
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導論Ⅰ（教育相談、進路指導を含む）	2		●			必修	4
		教育相談論B	2			◎	} 1科目 選択必修		
		生徒指導論ⅡB	2		◎				
教育実習	5	教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）	1				●	必修	/
		教育実習Ⅳ（中学校）	4				●	必修	
教職実践演習	2	教職実践演習（中・高） ※履修資格は下記を参照のこと。	2				●	必修	
必要単位数 計	31			教育実習履修資格 計					16

履修年次について

- ・履修年次とは、履修が開始できる年次のことです。なお、各自の年次より低い履修年次の授業科目は履修できますが、できるだけ示された年次で履修してください。
- ・履修年次欄の記号の意味は、以下のとおりです。
●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

「各教科の指導法」の授業科目について

- ・該当授業科目は、別に示す「教育学部教職科目 開講一覧」を参照すること。
- ・複数の教科の教員免許状を取得する場合は、教科ごとに「教科の指導法」の単位を修得すること。
- ・授業科目により履修年次が異なります。

教職実践演習（中・高）の履修資格について

- ・教職実践演習（中・高）の履修資格は、教育実習Ⅳ（中学校）を履修済、又は単位を修得済であること。

高等学校のみの教員免許状を取得する場合

区分	必要 単位数	該当授業科目	単位	履修年次				履修 方法	教育実習 履修資格
				1	2	3	4		
教職の意義等に関する科目	2	教職論	2		●			必修	2
教育の基礎理論に関する科目	2	学校と教育の歴史	2	●				必修	2
	2	学校教育心理学	2	●				必修	
	2	教育の制度と社会	2		●			必修	
		人権・同和教育	2	○					
教育課程及び指導法に関する科目	2	カリキュラム論 ※下記を参照のこと。 特別活動論 教育の方法と技術	2		●			必修	4
	2		2		●	●		必修	
	2		2		●			必修	
	2		2		●			必修	
生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導論Ⅰ(教育相談, 進路指導を含む)	2		●			必修	4
		教育相談論B	2			◎		1科目 選択必修	
		生徒指導論ⅡB	2		◎				
教育実習	3	教育実習Ⅱ(教育実習基礎研究)	1				●	必修	/
		教育実習Ⅴ(高等学校)					●	必修	
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高) ※履修資格は下記を参照のこと。	2				●	必修	
必要単位数 計	25			教育実習履修資格 計					16

履修年次について

- 履修年次とは、履修が開始できる年次のことです。なお、各自の年次より低い履修年次の授業科目は履修できますが、できるだけ示された年次で履修してください。
- 履修年次欄の記号の意味は、以下のとおりです。
●：必修科目 ◎：選択必修科目 ○：選択科目

「各教科の指導法」の授業科目について

- 該当授業科目は、別に示す「教育学部教職科目 開講一覧」を参照すること。
- 複数の教科の教員免許状を取得する場合は、教科ごとに「教科の指導法」の単位を修得すること。
- 授業科目により履修年次が異なります。

教職実践演習(中・高)の履修資格について

- 教職実践演習(中・高)の履修資格は、教育実習Ⅴ(高等学校)を履修済、又は単位を修得済であること。

2. 学部別の履修方法

① 文部科学省令で定める科目

区分	必要 単位数	該当授業科目
日本国憲法	2	該当する授業科目は、所属学部の「学生便覧」(理学部は、「教員免許状取得ガイド」)を参照のこと。
体育	2 ^注	
外国語コミュニケーション	2	
情報機器の操作	2	

注 学部によっては、3単位必要な場合があります。

③ 教科に関する科目

区分	必要 単位数	該当授業科目
教科に関する科目	20	該当する授業科目は、所属学部の「学生便覧」(理学部は、「教員免許状取得ガイド」)を参照のこと。

IV. 母校訪問

1. 母校訪問の意義

「母校訪問」とは、教職をめざす皆さんに岡山大学が提供する最初のプログラムです。昨年まで「生徒」として通っていた高校に「教職をめざしている大学生」として訪ねてください。そして授業や学級を観察し、生徒と触れ合い、恩師との語らいを深めてください。きっと皆さんが「生徒」であった頃には想像さえしたことの無い現実が、次から次へと目の前に現れるはずです。自分の考えが甘かったことを思い知らされる人もいるかもしれませんが、逆に「教職こそ自分の天職だ」という思いを強くする人もいることでしょう。

母校訪問を通して私たちが皆さんに期待することは次のことです。これから始まる教職課程の入口に、皆さん自身の足できちんと立って欲しいのです。母校訪問の機会には、未だ明確な輪郭を持っていないあなたの「教職への憧れ」に、確かな実体を与えてくれることでしょう。「教職をめざしている大学生」として母校に恩師を訪ね、「専門職としての教職」に触れてください。母校訪問の意義はここにあるのです。

2. 母校訪問の期間と内容

期間

母校訪問の期間は1日間です。大学が長期休業中であり、かつ高校が通常の授業日である時期を選び、1日間の訪問を行います。このような主旨から、夏季及び冬季休業期間、もしくは年度末の臨時休講期間に実施することになります。いずれの日程で実施するかは、後述する手続に従って、あなた自身が高校側と調整し、決定することになります。

内容

母校訪問は、岡山大学で教職課程を履修する学生が最初に取り組むプログラムであり、2年次以降に開講される必修科目「教職論」の履修要件となるものです。前期開講の「教職論」を履修するには前年度末までに、後期開講の「教職論」を履修するためには当該年度の前期中に母校訪問を終えていなければなりません。

1日間の訪問中、皆さんは①授業・学級観察と②恩師へのインタビューを行います。このことを通して学校や生徒への理解を深め、教職に向かう自覚を高めるとともに、自己の課題の発見に努めることとなります。

3. 教職志望学生としての自覚と責任

母校を訪ねる際、どのような自覚と責任をもって臨むべきでしょうか？ 大切なことは、教職をめざす者としての「自覚と責任」を、単に頭の中に描くだけではなく、具体的な態度や言葉として、あるいは目に見える行動として相手に示し、伝えることにあります。

- 服装・頭髪・名札・・・スーツ着用、髪を染めていれば黒に戻す。名札は必須。

- 時間厳守……決められた時刻のすくなくも 10 分前にはその場に着いていること。
- 挨拶……校舎内で出会う人には、教職員や学外者を問わず、自分から進んで挨拶をする。教室や職員室への入退室の際も同様。
- 準備物等の確認……『教職実践ポートフォリオ』の「母校訪問計画書【様式 1】」を参照。
- 鞆の置き場所……机や膝の上には絶対に置かない。床に置くことが鉄則。
- 節度ある生徒との触れ合い……「教職をめざす後輩」である皆さんは、母校の生徒から見れば「大学生の先輩」でもあります。
- 学研災または生協等の保険への加入……未加入の場合、母校訪問の履修は認められません。

ここに示したことは、教職をめざす者として学校を訪問する際、最低限、守るべき事柄です。もうひとつ、何よりあなた自身が学ぶ姿勢と謙虚さを持って訪問してください。目の前でおこる事柄に対して、常に謙虚に「なぜなのか？」と問い続け、またその問いを鍛える努力を忘れないようにしてください。

4. 母校訪問のための事前準備

『教職実践ポートフォリオ』に基づいて自己の課題を確認する

『教職実践ポートフォリオ』の 18-19 頁を確認してください。全学教職オリエンテーションが終了したら、18 頁の指標に基づいて、母校訪問に向けた自己の課題の整理に努め、学校教育への関心を高めてください。学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力のそれぞれ 4 項目ずつの自己評価指標に対して、今のあなたはどのような水準にあるでしょうか？ また母校訪問が終了したら、19 頁の指標に基づいて、あなた自身の教職志望の強さを再確認してください。

「母校訪問計画書」を作成し提出する

全学教職オリエンテーションが終了したら、『教職実践ポートフォリオ』の巻末にある「母校訪問計画書【様式 1】」に記入し、その写しを指定された期日までに教師教育開発センター事務室（教育学部本館 2F201）に提出してください。なお、【基本情報】のうち「訪問日」及び「指導教員の氏名・印」の項目と【確認事項ならびに準備物等】の欄は、後に記入しますので、提出の際は空欄としてください。

各自で高校へ電話連絡をする

計画書が提出された後、センターは高校宛に受け入れを依頼する文書を送付し、学生から高校に電話連絡をさせる旨を伝えます。その後、皆さんは、必ず決められた期間内に高校に電話連絡を入れ、教頭先生（または副校長先生）、あるいは教務主任の先生に直接受け入れをお願いしてください。受け入れて頂けることになれば、そのまま日程調整を進めるとともに、【様式 1】の【確認事項ならびに準備物等】の欄に従って、必要な事項を確認してください。なお、万が一、受け入れて頂けなかった場合は、速やかにその旨をセンター事務室に連絡してください（その場合は、学校支援ボランティアに取り組むこととなります）。

これらの手続きが終了したら、「母校訪問計画書」の「訪問日」及び【確認事項及び準備物等】の欄を記入した上で、大学でのあなたの指導教員（チューター等）を各自で訪問し、母校訪問に行く旨を説明し、確認して頂いた後、指導教員から【基本情報】の「指導教員の氏名・印鑑」の欄に自署・押印して頂くようにしてください。こうして「母校訪問計画書」が完成したら、今度はその原本をセンター事務室まで提出してください（各自でコピーを保管しておくようにしてください）。

5. 訪問時の注意

授業観察・学級観察に係る留意事項

最低でも1時間の授業観察・学級観察をすることが必要です。教室で授業を観察するとき、あなたは誰の動きに注目し、何を、どのように記録しますか？ そのときの視点・観点はどこに置いているのでしょうか？ここで手がかりとなるのが『教職実践ポートフォリオ』の19頁です。ここには母校訪問を終えた後の皆さんが、具体的にどのように成長していて欲しいのかを具体的な項目として示しています。この項目に事前に目を通しておくとともに、すくなくも以下のような事柄について、事前に見通しを持つようにしてください。

- 観察記録をどのようにとれば良いか（ノート工夫、記録する事項の厳選等）？

→クリップボードは必携です。各自で購入しておきましょう。

- 適切に観察できるためには、教室のどこに立っていることが望ましいか？

→後方からだけでなく、窓側に立って教師と生徒の相互作用に注目することも必要です。

- 観察記録に基づいて、事後にどのようなレポートを作成すれば良いか？

→記憶の新しいうちに、見たこと、聞いたことを文章に残すことに努めましょう。

インタビューに関する留意事項

母校訪問の期間中、恩師に対して1時間程度のインタビューを行ってください。その際、例えば、

- 生徒であった頃には知ることのなかった「職業としての教師」の実際
- 学校-地域-家庭の連携と学校教育の課題
- 教科のスペシャリストとしての自己研鑽の実際
- 教職あるいは公教育の社会的課題
- いじめや不登校などの教育臨床的課題に対する意見

といった具合に複数の項目を立て、順番に尋ねていく方法もあります。逆に、敢えて細かい質問を設定するのではなく、大きなテーマのもとで自由にお話しをして頂く方法もあるでしょう。

6. 母校訪問を終えた後に行うこと

「母校訪問報告書【様式2】」を作成する

単に訪問しただけでは、その経験があなたの血肉になるわけではありません。見聞きしたことを自らの確かな言葉に置き換える努力をして、初めて意味のある「体験」として、あるいは「見識」として、あなたの中に定着するのです。

母校訪問後には「母校訪問報告書【様式2】」に従ってレポートを作成します。これは①授業観察レポート、②インタビュー・レポート、③母校訪問を終えた自己課題の深まり、の3部構成となります。母校訪問終了後から1週間を期限とします。センター事務室まで提出してください。

母校へのお礼状を作成し送付する

母校訪問を終了したらすぐに、訪問を受け入れて頂いた母校の校長先生、ならびに指導教員の先生にお礼状をしたためましょう。書式と内容は任意です。社会人として、マナーに適った手紙の書き方を勉強する機会として取り組んでください。礼儀に適うお礼状の書き方を会得すれば、きっとあなた自身の幅が広がることになるでしょう。

7. 母校訪問 Q&A

Q1：ここで言う「恩師」とは誰のことですか？

→あなたの在学中、直接に何かの教科を教えて頂いたり、あるいは学級担任であった先生で、現在も母校に勤務しておられる先生が対象です。なお、懇意にしていた恩師が他校へ異動されていた場合でも、訪問先はあなたの母校に限ります。

Q2：授業観察のための教科はどのように決めれば良いでしょうか？

→あなたが取得しようとする免許教科の授業を見せて頂けるよう学校にお願いしてください。なお、該当する教科の授業がない場合には、比較的近い分野・領域の教科を選んでください。

Q3：配当学級を決める必要がありますか？

→事前に恩師と相談のうえ、可能ならば配当学級を決めてください。なお、この点は高校側の事情に応じて柔軟に対応してください。

Q4：高校ではなく中学校を訪問したいのですが可能でしょうか？

→母校訪問は高校に限定しています。中学校を訪問したい場合は別途案内する「学校支援ボランティア」に参加してください。

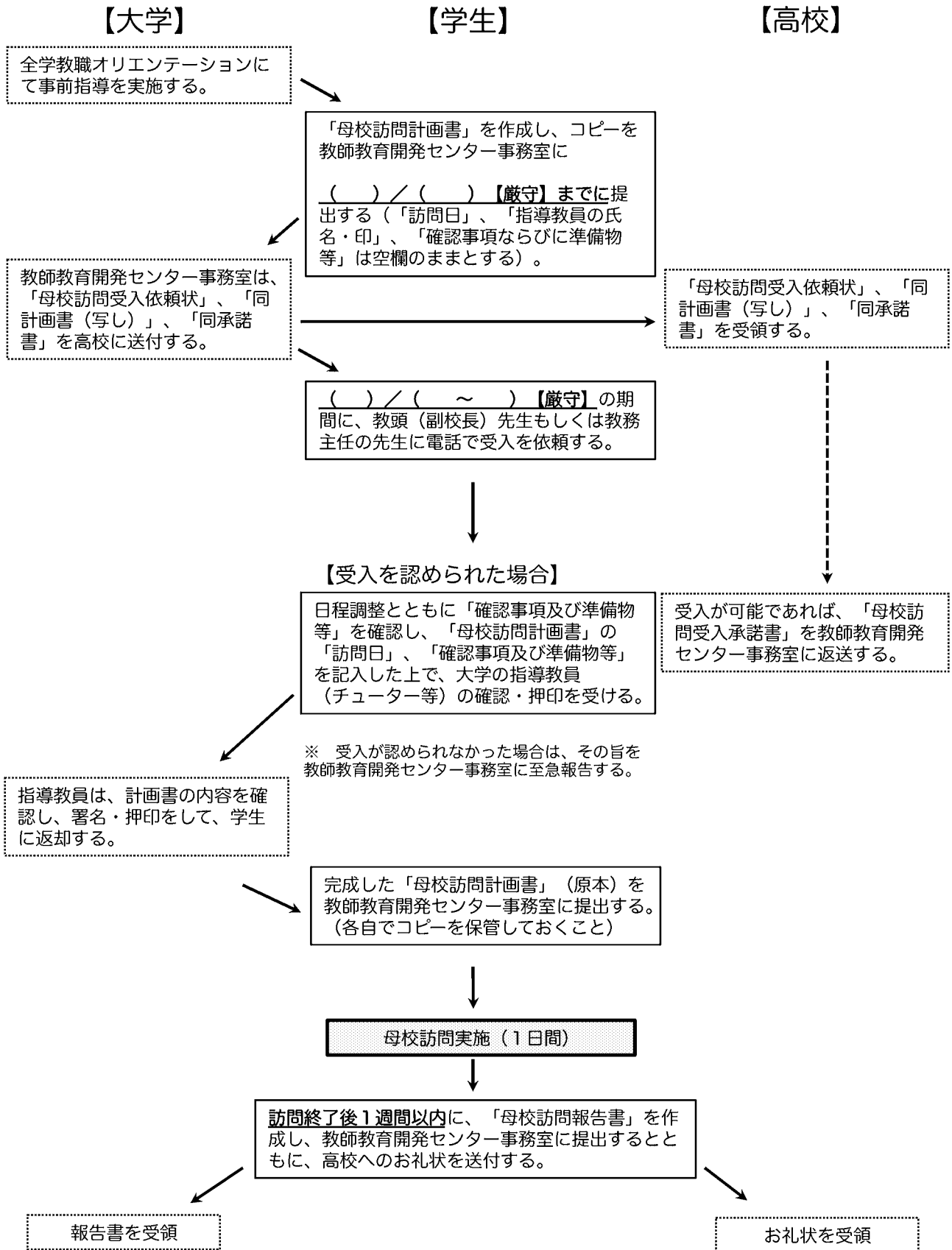
Q5：母校のある場所から実家が引越したので、泊まる場所がありません。

→各自でホテル等を手配して母校訪問を行うことは可能ですが、宿泊費等は自費になります。従って、このような事情のある方は、「母校訪問」ではなく、「教師への道」インターンシップ事業（岡山県）や学校支援ボランティア（岡山市）への参加を勧めます。なお、母校が統廃合等の事情によって無くなった場合も同様に考えてください。

Q6：実家が遠方にあるため、「教師への道」インターンシップ事業や学校支援ボランティアに振り替えたいのですが可能でしょうか？

→可能です。なお、学校支援ボランティアの詳細については、このハンドブックの33頁を参考にしてください。

【母校訪問の実施に係る流れ】



■■■ 母校訪問を終えた先輩から ■■■

- 教職の具体的な教務内容よりも、生徒と向き合い、教師同士のつながりを感じとれることが多かったため、学校における対人関係について考えさせられた。(文学部 男性)
- 授業を行う側の目線に立って授業観察をすることで、生徒だった頃には気づかなかった先生方の工夫が見えた。教師は一人の社会人としての自覚が必要だと改めて感じた。(文学部 男性)
- 生徒とのコミュニケーション能力の重要性を感じた。また授業で自らが教える科目をどう生徒に魅せていくかを考えなければならぬと思った。(法学部 女性)
- 授業で生徒を引きつける力も重要だと思ったが、それ以上にいかに授業前の教材の研究やその準備が教師の学習指導力の質を左右するものか、身を持って感じた。(経済学部 男性)
- 学習・生徒指導力の重要性よりも、コーディネート力の重要性というのを強く感じ、その能力を養っていかねばならぬと思った。(理学部 男性)
- 授業を構成する、また集会や LHR を構成するうえで教師がどのような準備をしているのか、知ることができた。(工学部 女性)
- 教科を教えることをとって、教材研究や板書計画など、たくさんの苦労を要するということが分かり、常に良い授業を進めることを考えなければならぬ。(環境理工学部 女性)
- 授業を淡々で行うだけでなく、多くの生徒が興味を持ち、数学という世界を楽しめるような授業を行う工夫を考える必要がある。また、クラス全体が勉強を自ら取り組める雰囲気を作る力がある。(環境理工学部 男性)
- 今までの流れでいくと、4年生の教育実習で初めて先生の立場を味わうのかもしませんが、教職課程を学ぶ初めの段階で教師の立場を味わえ、自分が何故教師になりたいのか深く考える良い時になりました。(農学部 女性)

V. 介護等体験

1. 実施スケジュール及び手続の流れ

中学校教員免許状を取得する場合、介護等体験が義務付けられています。
介護等体験は、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の計7日間実施します。

特別支援学校2日間

+

社会福祉施設5日間

合計7日間必要

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ スケジュール ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1年生 1月 掲示（事前申込について）

2月 事前申込（2月末締切）

～提出物～

- * 事前申込書
- * 麻疹の抗体検査結果もしくは予防接種の証明書（いずれもコピー）
- * 1,200円（事前指導教材費等） ※金額は変更になる場合があります。

3月下旬 掲示（正式申込について）

2年生 3月～4月 正式申込（4月初旬締切）

～提出物～

- * 介護等体験申込書（社会福祉施設用）
- * 介護等体験申込書（特別支援学校用）
- * 7,500円（社会福祉施設の介護等体験費用） ※金額は変更になる場合があります。
- * 麻疹の抗体検査結果もしくは予防接種の証明書（いずれもコピー）
（事前申込時に提出できなかった者のみ）

4月 介護等体験事前指導Ⅰ，Ⅱ（日程は決定次第後日掲示します。）

※Ⅰ，Ⅱ両方受講しなければ体験には参加できません。

5月上旬 掲示（健康診断書の申請・交付について）

6月上旬 掲示（実施施設・実施校の決定）

6月～ 介護等体験開始

体験終了後 各施設・各校での介護等体験終了後、1週間以内に各学部の教務担当窓口へ報告

～提出物～

- * 介護等体験証明書（原本） 社会福祉施設および特別支援学校各1部
- * 体験・参加の記録 社会福祉施設（5日分）および特別支援学校（2日分）
- * レポート 社会福祉施設および特別支援学校各1部

【保険加入】 「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険（Aコース）」
に必ず加入してください。 保険加入手続 ⇒ 学務部学生支援課
※保険の加入状況は、学務システムの【住所・電話番号】で確認できます。

【麻疹】 麻疹の感染拡大防止のために、教育実習生は、申込時に麻疹の免疫が確認できる抗体値の検査結果もしくは、ワクチンの予防接種を受けた証明書（母子手帳、予防接種手帳または医療機関が交付する予防接種済証明書など）の提出が必要です。
まだ検査を受けていない場合は、医療機関で検査し、抗体値が低い場合は、ワクチンの予防接種を受けてください。

2. 介護等体験に係る留意事項

■介護等体験とは

介護等体験とは、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に基づいて、小学校・中学校の教員免許状取得希望者に義務付けられているものです。

この法律は、教員志願者が個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めることにより、教員としての資質向上を図り、義務教育の充実を期することを目的としています。

介護等体験は、特別支援学校と社会福祉施設において実施します。障害のある方や体の弱い方、高齢者など、みなさんが普段接する機会の少ない人々との交流を通じて、相手を援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学び、人の心の痛みのわかる人づくり、多様な価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資することを目的としています。

■対象者

中学校教員免許状取得希望者で、2年生以上の者

※学業の計画を考慮して、できるだけ早い学年で実施するようにしましょう。

■実施期間・時期：いずれも岡山県内の特別支援学校及び社会福祉施設となります。

特別支援学校（盲・聾・肢体不自由・知的障害等） 2日間

社会福祉施設 5日間

体験時期は、7月～2月で、申込時に期間の希望を出すことが可能ですが、希望者多数の場合は必ずしも希望どおりとならない場合もあります。

■費用

事前指導教材費等 1,200円

社会福祉施設介護等体験費用 7,500円

特別支援学校証明書発行手数料 地域によって金額が異なります。

■事前指導について

岡山大学では、特別支援学校1コマ、社会福祉施設1コマの計2コマを行います（日程等は掲示）。

全員出席必須です。

体験先の特別支援学校や社会福祉施設で独自に事前指導を行う場合もあるのでよく確認しましょう。

■体験・参加の記録およびレポートについて

体験中は、体験・参加の記録を毎日記入し、体験先の先生に提出し、印をもらってください。体験終了後は、レポートを作成し、体験・参加の記録と一緒に所属学部の教務担当窓口へ提出してください。

■日程変更について

申込手続後の日程変更はできないため、申込時によく考えた上で実施日程の希望を記入してください。

※特別支援学校と社会福祉施設を同じ月で希望しないこと

■ 辞退について

申込手続後の辞退は認めません。

やむを得ない理由が発生した場合は、直ちに所属学部の教務担当窓口まで相談してください。

■ 単位について

介護等体験は、授業科目ではないため単位は認定されません。

■ 証明書について

教員免許状申請の際には、介護等体験証明書が必要となります。

各々の介護等体験の際には、終了時に受領できるよう、予め証明書作成依頼を行ってください。

■ 体験の中止について

体験実施期間中に、病気など急な事情で体験を中止せざるを得なくなった場合は、直ちに体験先の学校・施設および所属学部の教務担当窓口まで連絡してください。

■ 保険加入について (27頁参照)

■ 麻疹について (27頁参照)

■ お礼状について

体験終了後には、各自で学校長・施設長およびお世話になった担当者の方にお礼状を送ってください。

VI. 教育実習

1. 実施スケジュール及び手続の流れ

教育実習の手続きは、3年生4月からスタートします！

教育実習履修条件

①実習校内諾済

②教育実習履修資格単位数修得済

③4年次に進級

※教育実習実施年度の4月にこの条件を満たしていること

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ スケジュール ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2年生 3月 掲示 (教育実習の申込について)



3年生 4月上旬 教育実習申込・単位数の確認

～提出物～
* 教育実習履修願

教育実習履修資格単位数を
考慮しながら
履修計画をたてること！

掲示 (実習の内諾手続について)

4月下旬 内諾書の配付・手続の説明

5月～9月 教育実習内諾活動

～内容～
個人で実習希望校を訪問し、翌年度の教育実習受入をお願いし、内諾を得る。
原則として母校(中学校もしくは高等学校)で教育実習を行う。
中免 ⇒ 3～4週間 高免 ⇒ 2週間

9月末 内諾書の提出締切

～提出物～
* 内諾書
* 麻疹の抗体検査結果通知書もしくは予防接種証明書

保険への加入を
確認すること！

【保険加入】 「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険(Aコース)」
に必ず加入してください。 保険加入手続 ⇒ 学務部学生支援課
※保険の加入状況は、学務システムの【住所・電話番号】で確認できます。

【麻疹】 麻疹の感染拡大防止のために、教育実習生は、申込時に麻疹の免疫が確認できる抗体
値の検査結果もしくは、ワクチンの予防接種を受けた証明書(母子手帳、予防接種手
帳または医療機関が交付する予防接種済証明書など)の提出が必要です。
まだ検査を受けていない場合は、医療機関で検査し、抗体値が低い場合は、ワクチン
の予防接種を受けてください。

10月～7月 教育実習Ⅱ(教育実習基礎研究) 開始

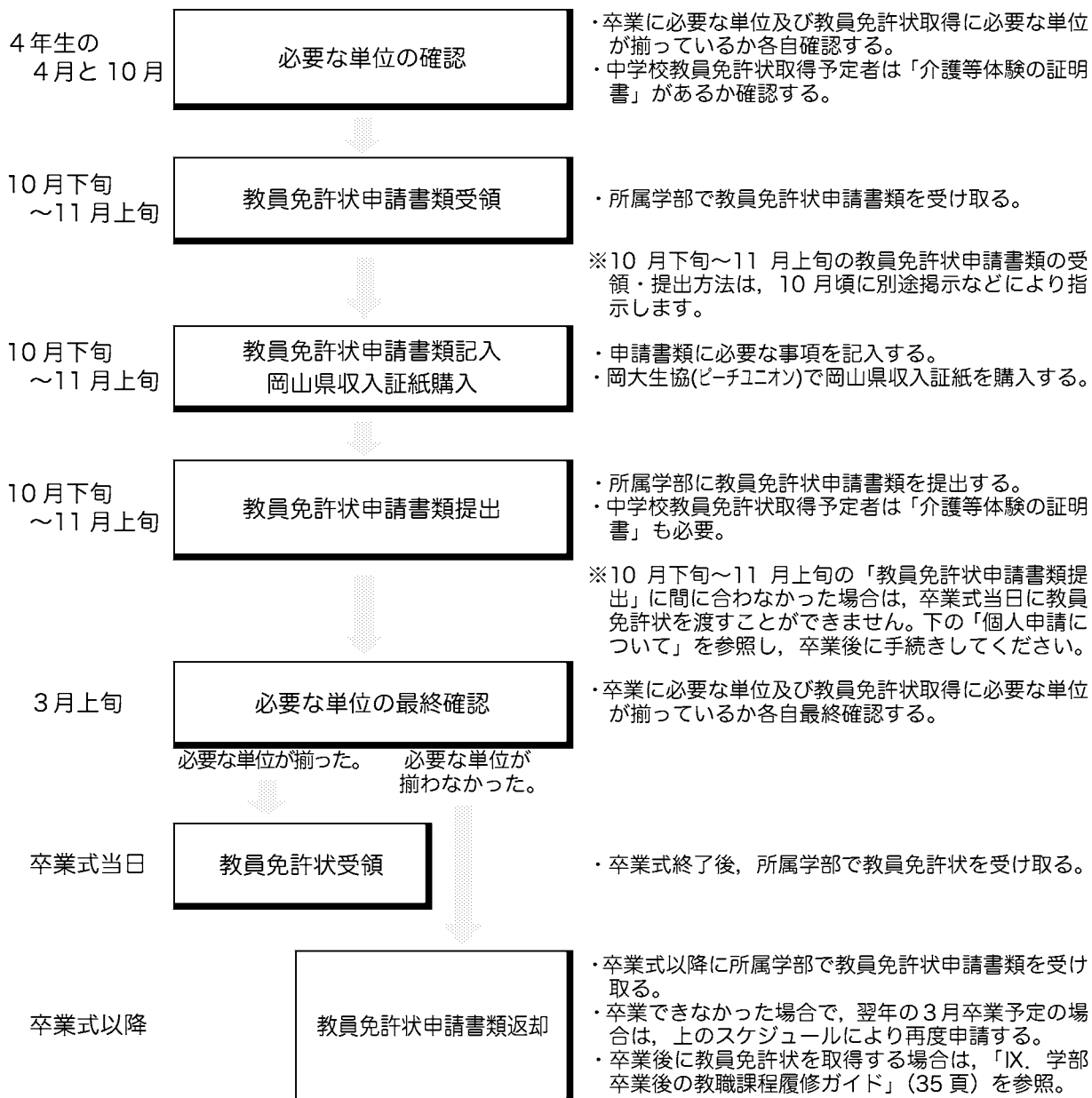
* 事前・事後指導にあたる授業(3年生後期～4年生前期までの通年)
* 日程・教室は事前に掲示で確認する。
* 履修登録不要(内諾書提出者について、事務で履修登録を行う。)

VII. 教員免許状の申請方法

教員免許状の交付を受けるためには、教員免許状の授与権者である都道府県の教育委員会へ「一括申請」又は「個人申請」により必要な書類を提出しなければなりません。

一括申請について

- ・一括申請とは、申請年度の3月に卒業予定の人を対象として、学部在学中に本学から岡山県教育委員会へ教員免許状申請書類を一括して申請する方法です。
- ・以下のスケジュールに従い、一括申請することにより卒業と同時に教員免許状を取得することができます。



個人申請について

- ・個人申請とは、卒業後に各個人が都道府県の教育委員会へ申請する方法です。
- ・一括申請の手続きに間に合わなかった場合や、卒業後に教員免許状取得に必要な単位を揃えた場合は、個人申請することにより教員免許状を取得することができます。また、9月卒業の場合も、個人申請となります。
- ・個人申請に必要な書類や申請方法は、教育委員会によって異なります。詳しくは、申請する都道府県の教育委員会へお問い合わせください。

VIII. 教員就職への支援体制

教師教育開発センターの教職支援部門では「教職相談室」を開設し、教職への就職支援に係る様々な相談業務を企画・運営しています。また定期的に開催している「教師力養成講座」では、学校現場の生の声を学生に届ける活動にも取り組んでいます。

1. 困ったら教職相談室へ

教職相談室では教員採用試験情報の提供、論作文の添削、個人面接・集団面接の模擬訓練、ロールプレイングや場面指導、模擬授業演習などの教職支援活動を行っています。平成 22 年度の延べ利用者は約 4,500 人にのぼりました。特に教育学部以外の学生の利用が増えており、教員採用試験に合格した学生の多くが、この相談室を平均 11 回以上利用していたことが判りました。教



職について知りたいこと、わからないことがある時は、学年、学部を問わず気軽に訪ねてください。学校現場で多くの経験を持つ専任教員が、教職をめざす皆さんの様々な質問や相談に応じます。きめ細やかな指導と親身な助言は、採用試験で合格を勝ち得た後も、そのまま皆さんの大きな力となるでしょう。また新規採用や講師採用の決定後～卒業までの間はもちろん、さらには卒業し、教壇に立った後も、学級経営や初任者研修、学校内での人間関係など、その都度相談に応じています。電話や手紙での相談も受け付けています。

2. 教師力養成講座で力量を高めよう

教職課程を履修している在校生や、新人教師として赴任した卒業生の多くが、不登校、いじめ、学級崩壊、安全・安心等、学校現場における様々な問題に対して、自分の指導力の未熟さを感じ、不安を抱えたり困惑したりしていることが判りました。そこで不安を解消し、課題に対して前向きに取り組める自信をつけるために、平成 21 年度から「教師力養成講座」を開設しました。

月に 1 回程度、公立学校の校長先生等、最前線でご活躍の先生をお招きし、学校現場が直面している様々な教育課題（いじめ、不登校、学級崩壊、特別支援教育）について講演をして頂きます。その後、学部や専攻の異なる学生の間で討論を重ねて考えを深め合い、互いの意見を発表し合います。こうした学生の協議に対して、講演をして頂いた講師の先生から適切な指導や助言を頂くことで、教師力の本質について理解を深め、教職に向けての意欲や自信を高めることができます。

【教職相談室の開設日】

開設日：月～金 受付時刻 (A)10:00～11:30 (B)13:30～17:00 (水曜日はAのみ。変更有)
場所：教育学部講義棟2階5209室
連絡先：(電話) 086-251-7660 (手紙) 〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1-1「教職相談室」
相談内容：

教員採用試験に向けて

- ・ 論作文の添削 ・ 教員採用試験についての相談 ・ 教員採用試験情報の提供 ・ 書類の書き方
- ・ 教師力養成講座のビデオ視聴と集団討論
- ・ 個人・集団面接、模擬授業 (来室予定者が多いときは見学者として参加できます。)
- ・ 教員採用試験受験報告書(卒業生執筆)の閲覧 ・ 講師採用に関する相談

教職関係資料の提供

- ・ 指導書、教科書 ・ 月刊誌 ・ 都道府県別採用試験問題集、採用試験情報 ・ 研究会発表資料
- ・ 学習指導案 ・ 文部科学省出版物 ・ 教師力養成講座配布資料

■■■ ボランティアやインターンシップへの参加を支援します ■■■

学生のボランティア活動やインターンシップの機会を提供するために、教師教育開発センターでは岡山県・岡山市教育委員会等との連携協力事業を展開しています。

「教師への道」インターンシップ事業は、岡山県教育委員会が主催する事業です。「将来の教員の資質向上」をめざして、①学校現場における実地体験(インターンシップ)と②県教育委員会の企画・運営による「教師への道」研修(年7回の研修)から成る事業です。県立高校でのインターンシップを希望する学生は、「教師への道」インターンシップに登録し、研修にも参加することを勧めます。

学校支援ボランティア事業は、岡山市教育委員会が主催する事業です。岡山市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校での教育活動に、あらかじめ登録した学生が参加します。主に①教育活動支援(授業補助、学校行事補助等)、②環境整備支援、③学校安全支援等の活動に参加します。学校現場の日常を体験する良い機会であるとともに、子どもの実態や変化、指導方法や支援の仕方、子どもとの関わり方を学ぶことができます。

地域社会にとって、学生は若く活力ある貴重な人材であり資源です。「学生である自分たちに出る地域貢献は何か？」を自らに問い、常に主体的に活動に参加して欲しいと願っています。詳しくはセンター事務室まで!!



岡山大学

学校支援ボランティア

岡山大学教師教育開発センター

学校園名	
------	--

活動内容	
------	--

IX. 学部卒業後の教職課程履修ガイド

専修免許状の取得

- ・大学院の博士課程前期に進学すると、専修免許状を取得することができます。
- ・専修免許状の取得要件は①「修士の学位を有すること」②「取得しようとする専修免許状と同じ学校種・教科の一種免許状を取得（所要資格を得ている場合を含む）していること」③「専修免許状取得に必要な授業科目の単位を24単位以上修得していること」です。
- ・取得できる専修免許状の種類や専修免許状取得のための授業科目は所属する研究科によって異なります。詳しくは所属する研究科の学生便覧を参照してください。
- ・専修免許状を取得する場合も一括申請（「Ⅶ. 教員免許状の申請方法」32頁を参照）の対象となります。なお、一括申請のスケジュールは、学部と同様です。

一種免許状の取得

- ・学部卒業時に単位不足で一種免許状を取得できなかった場合は、卒業後に科目等履修制度により必要な単位を修得した後、個人申請して教員免許状を取得することができます。
- ・科目等履修制度は、岡山大学の各学部で実施しています。また、他大学でも実施していることがあります。詳しくは、各学部の教務担当係、もしくは科目等履修を希望する大学へ問い合わせてください。

教職大学院（大学院教育学研究科教職実践専攻）への進学

岡山大学大学院教育学研究科は、大学新卒者と現職教員を対象に、高度な教育実践力の育成をめざす「教職大学院（教職実践専攻）」を設置しています。文学部や理学部など、教育学部以外からの進学者も多く、平成22年度修了生の中には、中学校や高等学校の新任教師（正規採用）として巣立った先輩もいます。

教職課程を履修している皆さんには、自らの専門学部につながる研究科（大学院）へと進学し、そこで専修免許状を取得するという選択もあります。しかし、もうひとつの進路として、本学の教職大学院へ進学することも、魅力的な進路かもしれません。自らの学部で教科に関する専門知識を深めれば深めるほど、これを子どもたちに伝えるための、より高度な教育実践力を磨くことに取り組みたいと思うことでしょう。

ここで言う「高度な教育実践力」とは、学級経営、カリキュラム、学習指導、生活指導、生徒指導、地域連携、子ども理解、保護者対応等、現実の学校教育現場で求められる実践的力量的なことです。このような力量を培うために、教職大学院では10単位に及ぶ教育実習に取り組むことができます。実際の教育現場に入りながら、学校の現実の課題に学び、より高度な実践的指導力を培うことが可能です。

なお、大学院教育学研究科には、いわゆる教職大学院（教職実践専攻）の他に、「学校教育専攻」「発達支援学専攻」「教科教育学専攻」「教育臨床心理学専攻」という4つの専攻があり、教科教育や教育実践の理論に強く、高度な研究能力を学校現場で生かせる人材を育てています。

X. 先輩からのメッセージ

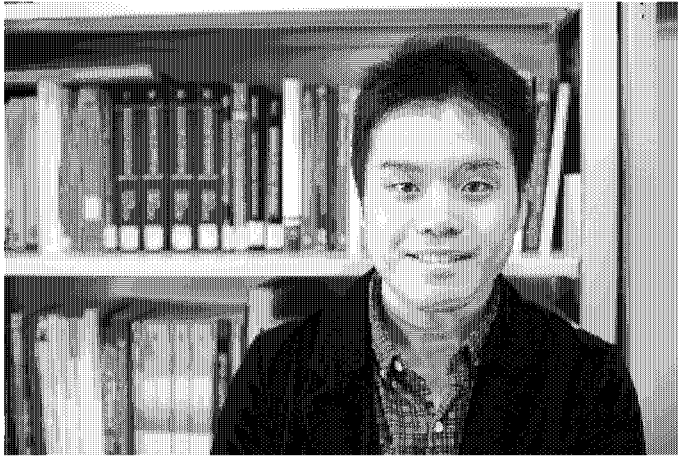
以西英利香（理学部数学科 平成22年度卒業 大阪府高校採用 数学科）

私は中学生の頃から「一生感動し続けられる教師」という職業に就きたいと思っていました。大学受験時、理学部に進むか教育学部に進むか迷った時期もありました。その際、教育実習に来られていた先生方の話を聞くことで、理学部へ進み、数学的思考力をもっと養った上で教壇に立ちたいと思うようになりました。大学進学後、初めは専門の勉強が忙しく「教育」について考えることができませんでした。しかし、高校教師になりたいという意志は固まっていたので、先輩に話を聞いたり教職相談室へ行ったりして、教師になるための情報を集めるようになりました。そこで「教師とはどういうものなのか、今の学校現場の実態はどうなっているのか」、「教師になるための資質とは何なのか」を知る必要があることを学びました。私は前者の問題へ立ち向かうため、学校支援ボランティアに参加しました。ここでは、問題の答えだけでなく、指導方法や生徒との関わり方を学ぶことができました。また後者の問題へ立ち向かうため、地域のボランティア活動に参加したり、瀬戸内国際芸術祭に行ったりしました。ここでは、普段自分と関わらない人と出会うことができ、自らの世界を開拓することができました。知らない人と出会う時こそ、自分を成長させられる瞬間であると感じました。また人間性を豊かにするとともに、知識も必要であると考え始め、教員採用試験に向けて1年前から勉強を始めました。理学部に在籍していることもあり、教職教養の勉強の仕方が全く分かりませんでした。まずは問題を解いて傾向を掴むことが大切であると分かりました。教師を目指しているみなさん。これから多くの悩みにぶつかると思いますが、教師になりたいという意志を確固たるものにしてください。そして情報を集め自分から動いてください。自分を成長させることが、生徒を教育することにもつながります。将来、一緒に感動し続けられる教師になりましょう。



小山龍一（文学部人文学科 平成22年度卒業 兵庫県高校採用 英語科）

文学部生でありながら、高校の教員をめざした理由は2つです。ひとつは専門的な知識を持ち、活用する楽しさを伝えたいと思いました。英語の場合、高校までは文法や発音を頭で勉強することはあっても、使うための勉強は皆無でした。大学在学中に1年間の交換留学を経験した私は、体験的に英語を習得できる授業をしたいと強く思うようになったのです。いまひとつは高校時代の恩師の存在です。何の夢も持てず日々を過ごしていた当時、私の話に耳を傾け、打ち込めるものを探手助けをしてくださいました。答えを与えるのではなく、一緒に悩み、親身に考えて下さる姿勢に心打たれました。「勉強しても何も役に立たない」と投げやりだった私を、人生は一度きりなのだから、ひとつくらい一生懸命になれることを…と前向きに変えて下さったのです。恩師のように生徒に自信を持たせられる教師になりたいと強く憧れているのです。



1～3回生の間は、専門力を高め社会性を身につける努力をすべきです。解りやすい授業をするには教科に関わる深い知識を持っていないけません。講義を出発点に興味ある分野を掘り下げてください。また社会性を身につけるには、組織の一員として活動する経験が重要です。私は児童文化部に所属し、様々なボランティア活動に取り組みました。保護者や学校の先生方との打ち合わせを通して、相手や状況に合わせることを、判

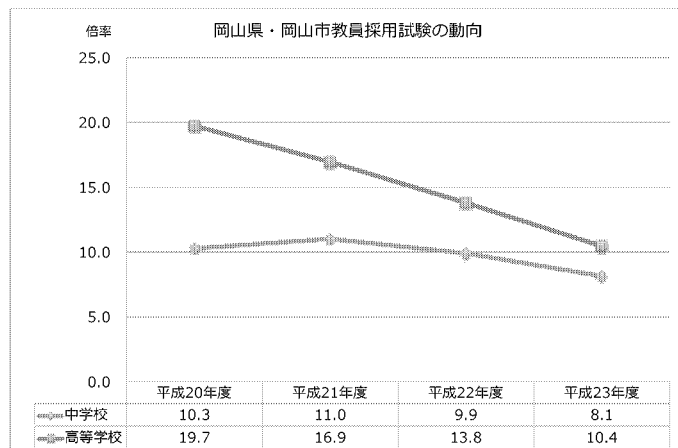
りやすく情報発信すること、様々な人と協力し目標を達成する大切さを学びました。4回生ではこれまで知識として理解したことを実践できるようにします。その際、自分の取り組みを他の人に評価して頂くことが重要です。私は教職支援室の先生方に集団討論や模擬授業のアドバイスを頂くことで、実践の現場に適う指導とは何かを考えるヒントが得られました。また様々な学部仲間と出会い、多角的な視点を持つことも学びました。現役の学生に最も欠けているのは当事者意識です。互いを高め合う仲間を見つけ、意識を高く保ち、身近な所から実践してください。最後に、教師は生徒に自分の言葉で思いを伝えることが大切です。そのためには様々な経験を積み、抽斗(ひきだし)を増やしておかなければなりません。今の自分に満足せず、食欲に興味を広げ、よく学びよく遊び、悔いの無い学生生活を送ってください。

■■■ 教員需要は回復傾向に ■■■

教員需要は全国的に長らく厳しい状況が続いてきました。しかし近年、団塊世代の大量退職期を迎えるなかで、全体に回復傾向を示しています。たとえば本学の所在する岡山県の場合、中学校と高等学校の教員採用試験倍率は、下図のように低下傾向にあります。

しかし、この傾向は地域によって大きく異なり、岡山県以上に採用状況の厳しい地域もあります。また、あなたが受験しようと考えている教科によっては、その年の採用試験の募集自体が無い場合、あるいは若干名に限られる場合もあります。

皆さんが教員採用試験を受験する頃に、あなたが受験を希望する地域、校種、教科の採用状況がどのようになっているか、予測することは難しいですが、平日頃から情報を集め、対策を心がけていることが必要です。



教職課程履修ハンドブック

平成 23 年 6 月

編集：岡山大学教師教育開発センター

〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中3-1-1

TEL：086-251-7728

印刷：広和印刷株式会社

〒700-0942

岡山県岡山市南区豊成3-18-7

TEL：086-264-5888



教員養成の明日を築く



岡山大学教師教育開発センター
Center for Teacher Education and Development, OKAYAMA UNIVERSITY

学部・学科

学生番号

氏 名